



H A I
Ⓟ
K E I
Ⓟ
S H I N
Ⓟ
B U N
Ⓟ

発行日 平成16年7月15日
発行 社会福祉法人 和教会
〒441-1318 愛知県新城市
八東徳字天王1032番地の2
TEL (0536)22-0760
<http://www.wakyokai.or.jp/>

●この広報誌は地球にやさしい再生紙を使用しています。



理事長あいさつ

社会法人和教会 理事長 太田 一平

合計特殊出生率1.29という数値が再び脚光をあびた。合計特殊出生率とは、二人の女性が生涯をかけて産む子どもの平均指数のことであり、この数値が2.0を下回ると人口の減少が始まるとされている。今年の合計特殊出生率は6月10日に厚生労働省から発表されたが、年金法改正に絡んで意図的に2週間ほど発表を遅らせていたことが発覚したが、予想を下回る早さで少子化の進行は進み年金法改正の根拠を根幹から揺るがすことにもなりその下げ止まり感は留まるところを知らない。この合計特殊出生率の低下は少子化を意味し、国は95年度から少子対策に本格的に取り組み、育児休業制度の普及や労働時間短縮などを進めてきたが、制度がなかなか浸透していないのが現状である。04年度中には新しい対策をまとめることにしている。是非とも新しい対策では、働く親の視点に立つのでなく、子どもの視点に立った政策立案が望まれる。生まれてきた子ども達が安心して成長できる環境づくりを目指してもらいたい。子どもの育つ環境に

影を落とすものとして親の離婚がある。平成14年度の離婚件数は29万2千組から平成15年度は28万4千組と13年ぶりに減ったが、離婚の約7割が有子離婚であり、子どもがその犠牲者となっている。特に離婚した子どもへのメンタルケアが必要不可欠であるにもかかわらず、そうした子どもへの配慮は皆無といわざるを得ない。時に子どもは親の離婚を「自分のせい」と感じ取ってしまう。親同士は離婚に至るまでには長い時間をかけ話し合った結論として納得づくで離婚をするが、往々にして子どもは常に蚊帳の外である日突然に「お母さんとお父さん別々に暮らすことになったの。あなたどっちと暮らしたい?」という答えの出せない答えを求められるのである。家族という絆が絶対的なものであればあるほどその壊れ方は修復不能となる。施設での取り組みとして家庭支援相談専門員の配置がなされたが、家庭支援相談専門員は親子の再統合を目標とするのではなく親子の新構築へ向けての取り組みが求められている。

三河のあじさい寺 本光寺 ケアハウス・紫陽花ツアー

降りみ降らすみの空模様の中、ケアハウスの皆さんお揃いで、三河のあじさい寺として有名な地元幸田町内の本光寺へ紫陽花ツアーに出かけました。本光寺は幸田町大字深溝にあり、正式名称は曹洞宗瑞雲山本光寺といえます。山門にいたるまでの参道の両側には15種類約三万本の紫陽花が咲き誇り、その紫と朱塗りの山門がとてもマッチして見事な景色を作り出しています。ケアハウスの皆さんもひととき言葉もせず紫陽花に見とれっぱなし。

三河のあじさい寺本光寺へはJR東海道線三ヶ根駅から東方へ300m。まどかの郷から車で10分程度のところにあります。ぜひこちらへお出かけの際は一度お立ち寄りください。



まどかの郷

環れ家ごはん



管理栄養士
池田恵子

思い出献立



【日時】 5月11日：夕食時
【献立】 押し寿司
【材料】 ●米・酢・上白糖・干瓢・醤油・干しいたけ・ほうれん草・むぎえび・卵・しろだし・桜でんぶ
【作り方】 下準備
●干瓢・椎茸は甘辛く煮る
●ほうれん草はゆでたら、醤油・砂糖で和え、味を染み込ませたらかくしぼる
●むぎえびはゆでたら、甘酢に漬け込む
●卵は薄焼き卵を作り、棒状に切る
●各材料の下準備ができたなら、箱に寿司飯を詰め、その上に彩りよく材料を並べ、箱にふたをして重ね、最後に重石をして15分ほど置く

今回の「思い出の献立」に登場いただくのは、志賀みわさん・鳥居末子さんのお二人です。お二人に「思い出の一品（献立）を教えてください」とお尋ねすると、お二人より「お祭りの時によく食べた（作った？）、押し寿司がええ」とのご注文をいただきましたので厨房の皆さんに腕をふるって作ってもらいました。

出来上がった押し寿司を早々に召し上がっていただくのと、「ごはんが上手に炊けているし、味もおいしい」と大変喜んでくれました。



大きな口を開けておいしそうにほうばる鳥居末子さんです。



昔を思い出しながら味をかみしめて食べられる志賀みわさんです。

「思い出の一品（献立）を教えてください」とお尋ねすると、お二人より「お祭りの時によく食べた（作った？）、押し寿司がええ」とのご注文をいただきましたので厨房の皆さんに腕をふるって作ってもらいました。

出来上がった押し寿司を早々に召し上がっていただくのと、「ごはんが上手に炊けているし、味もおいしい」と大変喜んでくれました。

遠い昔の懐かしい味を再現することで皆さんにこんなにも喜んでいただけて、メニューを考える私も、調理する厨房職員もますます「おいしいものを召し上がっていただくよう！」という気持ちになりました。ぜひ皆さんもまどかの郷の自慢の一品「押し寿司」をどうぞお試しください。

本日のおしながき



- しめじと稚鮎の煮物 (沢がに添え)
- 帆立の煮物
- お造り(鰹・蜆・烏賊)
- 卵豆腐
- エビフライ
- シジミの味噌汁
- ごはん
- 漬物
- デザート



「田家」さんはまどかの郷から車で10分ほどのところにある和食のお店です。お店の構えも和風でとても落ち着いた雰囲気です。お店に一步入ると昔懐かしいタンヌや陶器の置物、切り紙を使った椅子などでおしゃれな演出しています。

たまにいくならこんな店



器へのこだわりと昔を懐かしく思う素材へのこだわりが料理にみごとなまでに表現されています。皆さんが揃って注文したのは「まどかの郷特製ランチ」。通常のお客様のランチとは異なり魚介類を多く取り入れてくださったという「田家」さんでは牡蠣という素材に注目しているそうで、パリエーション豊富な牡蠣料理をお客様にお出ししたいとご主人は話しておられました。また、今度は牡蠣料理をいただきたいですね。

田屋

TEL:0564・62・1103
幸田町大字横落字郷前155

八楽児童寮のホームページに「おっとり君ニュース」のコーナーがあります。このコーナーは毎月、八楽児童寮長が施設の様子や日々雑感をコラムにして掲載しています。ホームページへアクセスしていただければ誰でも読むことができますが、拝啓新聞にもこの「おっとり君ニュース」を掲載することにしました。ぜひ今月号をお読みください。



寮長コラム

カルフォルニア州立大学デビス校のあるデビス市は、サンフランシスコから北へ2時間程の所にあります。私たちは、この旅でデビス校の客員としてデビス市長を表敬訪問する機会が与えられた。(デビス市は犬山市と姉妹都市)このデビス市は周辺の市とはいささか違っていた。驚くことに市長の月給は月500円。つまり市長という公職は、ボランティアなのである。他の市議会議員も同様であり、投票の一番多かった人が副議長を務め2年後に市長になるのである。そして、議会場は常にオープンで市民がいつでも議会に来て発言をすることができるようになっている。まさに市民のための民主主義である。日本でも最近アセスメント(評価)のあり方が問われている。「こうした政策を行ったら、いったいこれは効果的な政策と言えるのだろうか」また、政策を行った後には「どのような効果をもたらしたのだろうか」という評価にさらされるのは当然のことである。しかし、行政施策を構築するときは専門家による「何々審議会という政治手法や行政手法」を使い、その手法がなかなか見えてこなかったがこうした手法はもはや古い古典的な手法であろう。

こうしたデビス市の取り組みはカルフォルニア州においても決してスタンダードではないそうだが、少なくとも市民が直接的に政策決定する議会に対してものが言えるシステムは民主的でありすばらしい。市民(素人)の意見をどんどん受け入れる社会であれば、町づくりにしても、もっと素晴らしい成果が期待できるのではないだろうか。市長は「アメリカという国は、自由に意見が言える国でその意見に対しては賛成もあるが反対もあるしかし、少しでも効果があると認められるのならその政策は続行される。」という言葉が印象的でした。蛇足ですが、ちなみに市長さんはどうして生計を立てているのかと野暮な質問を試みたらご主人が弁護士さんでその扶養家族ですとの答えが返ってきた。他の議員もそれぞれに仕事を持っているとのことである。議会も土日開催をし、市民がいつでも議場へ来て発言しやすいようになっているとのことであった。これが本当の民主主義であるのか。



全国老施協メール NEWS

全国老人福祉施設協議会が毎月(15日)発行している「全国老施協メールNEWS」は最新の介護保険情報満載でメールアドレス登録者に配信されています。このメールマガジンの編集制作をしているのがまどかの郷施設長です。全国老施協メールマガジンの「わいわいがやがや」のコラムを拝啓新聞でご紹介します。ぜひお読みください。

全国老施協グループホームセミナーを終えてこれからのグループホームのあるべき姿とは…

いまや痴呆対応型共同生活介護(グループホーム)は、すさまじい勢いでその数を増やし、4,500箇所を超えるまでになりました。勢いはとどまらずいま尚急増し続けています。グループホームが増えることはサービスが多くなることですからむしろ歓迎したいところですが、その一方で粗製濫造を心配します。グループホームの運営主体が多様化していくなかで、ケアの質や経営の確保が危ぶまれる所も現れ始めました。

劣悪な処遇を行うグループホーム。高額な自己負担を求めるグループホーム。個室に鍵がなくホーム自体に鍵をかけるようなグループホーム。これでは空気が多くなるのも当然です。せつかくのグループホームが育ちません。

ぜひグループホームを成熟させていきたいものですが…。

京都・東山に青少年自立援助ホーム「東樹」というグループホームがあります。このホーム長である龍尾和幸氏は「いま、日本の福祉は大きな変革期にあり、施設の形態も種別の如何に関わらず、地域の中で一人ひとりが心地よい生活を営むため、大きな施設からグループホームという暮らし方に移行し始めている。しかし残念ながら、その形態は欧米スタイルを真似たもので日本の文化の中に芽吹いたものではない。従って、日本のグループホームの暮らしは決して心豊かとは言えない実情がある」と語っています。いつまでも欧米を「真似る福祉」ではなく、欧米と「共に学ぶ福祉」にしていかなければならないと思います。

欧米を真似るばかりではなく、隣の福祉から学ぶことも大切なことではないでしょうか。

八楽児童寮



苦情解決委員

龍尾 和幸 氏

私の楽しみ

-第1回-

龍尾先生の楽しみは何ですか？

龍尾..どんな小さな頂き物の品であろうと人間であろうと、必ず居場所があるんだよね。

この品物をどこに飾ったら一番いいだろうとか。それで、ぴたと場を得るといふかねそういうことが僕は好きやね。ましてや子どもたちにどういふ場所を用意すれば、ひとりひとりの子どもが自分の居場所を見い出せるだろうと思っただけでもない、こうでもない工夫

「八楽」の名にちなんで、八楽児童寮ゆかりの八人の方々に「楽しみについてインタビュー」をしていきます。

今回は、京都市の自立援助ホーム東樹ホーム長 龍尾和幸氏です。

龍尾さんには、八楽児童寮の苦情解決委員をお願いしております。

龍尾さんにお会いすると職員みんな元気ができる、そんなお人柄です。

していくこと。それが楽しいねえ。

なかなか難しいことですよ。

龍尾..難しいよ。でも難しいから楽しい。

簡単なことは楽しくない。難しいから工夫ができる。工夫できない決まっているものは楽しくない。創造していくということができないから楽しいんだよ。

今までで一番楽しかった思い出を

ひとつあげたら何ですか？

龍尾..養護施設の職員だった時に子ども

たちと琵琶湖一週オーバーナイトハイクというのをやってたわけ。

歩いてですか!?

龍尾..そう。1周200km。夏休みの5泊

6日で、日平均40km。これを12年間やったので、2,400kmか..。

自転車12周したっていうことはあるかもしれんし、2,400km

歩いたつちゅう人間もおるかもしれんけど、でも「琵琶湖200km、

12回歩いた」つちゅう人間はいないんちゃうかなあ。

その中でも特に印象に残っている

出来事は？

龍尾..夏に200km歩くといういろんなドラマがあるんや。深夜に休憩をし

て夜食を食べるんやけど、雨が降ってて屋根がないと困っていたら。ガソリンスタンドのおばちゃんが出てきて場所を貸してくれたんや。そして、30分ぐらいたった時かなあ、おばちゃんがパレットにおにぎりをいっぱい握って、持ってきてくれた。子どもたちも大変喜んでねえ..。「私はもう寝るから、火の元だけ気を付けて出て行ってくれたらいいから。何にも気にせんでええよ」

と言って下さった。いざ時間が来て出る時にリーダーの男の子がノートの端切れに、「寒い雨の中でおにぎりをいいたでいて元気が出ました。おばちゃん、ありがとう」と書いてね、そして壁に紙をぱちつと止めてね、何とも嬉しかった。下手な字やけども感謝の気持ちを書いて貼り付けていく、その子ども達の心、な〜んか嬉しくつてね。

それから、鶴岡さんという保育がおつたんやけど、この人はだいたい夜中の2時とか3時とかになって、しんどくなるよと青春の歌を歌いだすんだよなあ。その時にね「ああ、人間ていうのは立派なことや、「頑張り」とか「ちゃんとやれ」そういう言葉で、元気になるんじやないんだな」と。苦しい時に苦しいと思うのはみんな一緒。だけど、苦しい時に歌を歌えるそんなおらかな明るさ、元気さ、これがやっぱり要るんだよなあ。そんな人が必要なんだよなあ。それを誰に求めるばかりじゃなくて、自分がなれたらええなあと思うね。

私の楽しみ



インタビューの感想

「人が楽しいと、自分も楽しい」そんな龍尾さんのお気持ちが素敵だなと思います。

ほんとうに拝聴して楽しくなる「私の楽しみ」でした。

私の原点

保育士 加古 昌子



このような表題で作文ができるほど、私の「福祉の道を選んだわけ」は大したものではありません。色々なことから逃げた先が、福祉だったのかもしれませんが。愛知県立女子短期大学児童福祉学科に進んだのも、どのみち子どもは育てるだろうから：そんなことが理由でした。

福祉の仕事に興味がなかったわけではありませんでした。「国際障害者年」そんな風と呼ばれた年に、私は中学生くらいだったでしょうか。テレビ番組では「のり子は今」というドキュメントを放送していました。両手を失った彼女は両足を器用にこなし、髪をとき、お金を数えて、文字も書いていました。足を手のように使う方は初めてでした。その強い生き様にとっても大きなショックを受けたことを覚えています。番組の表題の文字もテーマソングも、はつきりと覚えているんです。

我が家には、「あきちゃん」という両足が不自由で松葉杖をつけて歩行する父のお弟子さんが住み込んでいました。脳裏を探ると、ブラウン管の中で必死に生きる彼女の姿と、いつのまにか横にいていつも逆立ちをやってくれたあきちゃんが重なって記憶に残っています。そして、そのお弟子さんと並んで仕事をしていた父、それを支えた母、そういう家庭を導いた祖母。決してよいことばかりではなかったことはいまでもありませんが、今の私の根っこにしっかりと存在していることは確かです。いわば私の原点でもあるんでしょうか。

お父さん、あきちゃんに何を教えたの？お母さん、お嫁に来てどう思った？おばあちゃん、何を大切にしていましたか？そして、今は天国のあきちゃん、あなたは幸せでしたか？

「ありがとう、トシ子先生」

八楽児童寮で30年以上も勤務された内藤トシ子先生が6月に退職されました。長い間、本当にありがとうございました。

長い間、たくさんの方達にお世話になり、有難うございました。

寝台列車で15時間以上かけて新城の地を踏んだのは40年前。今は5時間もあれば故郷へ行けます。時代の流れと共に八楽児童寮も変わり、当時は懐かしむことが



八楽児童寮
内藤トシ子先生

ができるのは道ばた文庫と店の家ででしょうか。施設の運営、子どもの生活理念と実現化に熱っぽく語り、ユニークな行事で子どもや職員を真剣に、かつ楽しんでご満悦な顔の初代寮長に惹かれて出戻りの揚げ句、新城に落ち着く決心をしました。それから34年、そのうち30年が園内保育。150人近い幼い子どもたちの保育生活でした。お世話するのは1〜4年程度、後は小学生〜中・高校生へと成長していく姿を見守ってきました。ミニ卒園式、トカゲをポケットに入れて喜んでいたり、つぼみの花の茎を折ってしまつてセロテープで止め、花を咲かせた子、飴玉を飲み込んで苦しがつた子：：と思ってしまう言葉や行動に喜怒哀楽の日々でした。

幼い子のエネルギーをいっぱいもらつたことで元気に仕事ができたと思っています。そして家族の支えもありました。今度は老いた母のために私が支えになろうとしています。八楽児童寮の皆さんには自分の夢を持ち、元気いっぱいに羽ばたいて下さいね。

たくさんの方達、たくさんの方々との出会いがあり、こんなに長い間勤めさせて戴いた八楽児童寮に感謝、感謝です。本当に有難うございました。

全国から52万人の
署名集まる!

私たちは軽度の要介護の方が デイサービスやホームヘルプサービスから 切り離されることに反対します!

**軽介護者の通所介護等
切捨て阻止全国署名運動**
ご協力ありがとうございました。

来年4月の介護保険制度改正の折に、国は軽度の要介護者のデイサービスやホームヘルプサービスの利用抑制を検討しています。もしこれが実現されれば軽介護者は、デイサービスやホームヘルプサービスが利用できなくなってしまう。

これでは、在宅サービスの充実を損ねかねない政策転換です。

そこで、全国老協が行った「軽介護者の通所介護等切捨て阻止全国署名運動」にご協力をお願いいたしましたところ、本当に多くのご利用者ご家族の皆様からご協力をいただくことができました。ありがとうございました。

皆様から寄せられた署名簿は、まどかの郷から全国老協へ届けられました。



まどかの郷

美々彩々

きれいに活けて 咲いて

神田 隆子さん

たとえ一輪挿しの花でもまどかの郷へ訪れる者の心を和ませてくれます。ほぼ週に1回まどかの郷の玄関先に生け花を活けつつけてもう五年以上。本当に心癒されるボランティア活動を続けてくださっているのが、幸町内にお住まいの神田隆子さんです。四季折々に…色艶やかに…しおらしく…

観る者の心を洗うかのように玄関の一隅を照らしている神田さんの活け花に多くの来郷者はしばし足を止めみいる方も少なくありません。また、入所者の皆さんも玄関先のお地蔵様に手を合わせながら季節の移ろいを生け花で感じ取っている方も多ようです。どうぞこれからもよろしくお願いします。



平成15年度 事業報告書



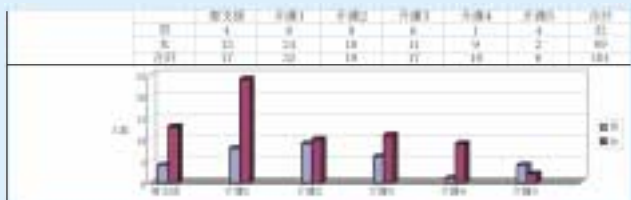
社会福祉法人和敬会は、5月29日八楽児童寮で理事・評議員会を開催し、八楽児童寮・まどかの郷の平成15年度事業報告並びに各会計決算を審議した上、承認致しました。ここに、平成15年度まどかの郷事業報告の一部を紹介します。

平成16年3月31日現在

平成15年度

まどかの郷 デイサービスセンター 事業報告書

登録者要介護度区分



要介護別延利用者数

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	36	31	25	42	46	49	69	83	79	65	180	119	792
要介護2	223	224	222	219	221	222	226	223	229	226	226	222	2869
要介護3	245	239	242	213	189	182	206	181	186	192	185	191	2221
要介護4	179	181	144	171	181	154	157	112	97	105	108	101	1721
要介護5	67	67	78	75	64	67	82	71	72	65	81	98	844
延利用者数	767	765	734	671	731	738	658	720	688	615	730	543	8667
1日1人当り	39	31	36	31	30	31	30	27	27	27	29	26	326
1日1人当り	20.0	20.1	19.9	19.9	20.0	19.9	19.9	19.9	19.9	19.9	20.0	19.9	20.0
平均年齢	72.1	72.4	72.5	72.7	72.7	72.8	72.9	72.9	73.0	73.1	73.1	73.2	72.9

登録者要介護度区分割合



平成16年3月31日現在

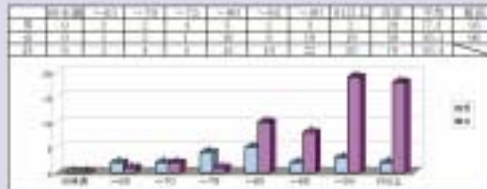
平成15年度

特別養護老人ホームまどかの郷 事業報告書

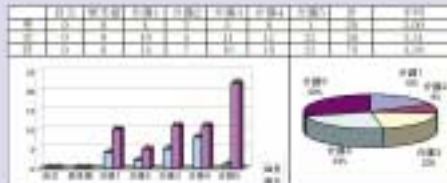
市町村別入所区分



年齢別入所区分



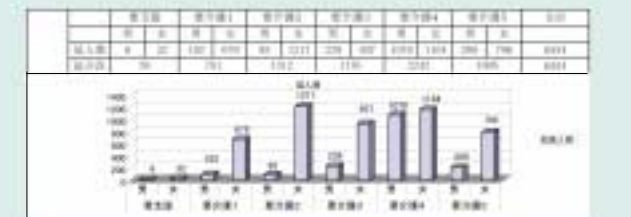
要介護区分



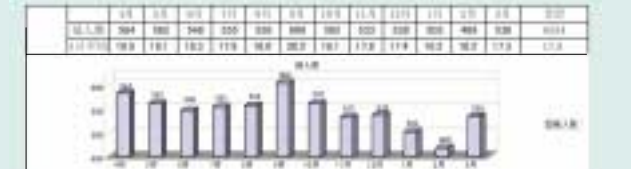
平成15年度

まどかの郷 ショートステイ 事業報告書

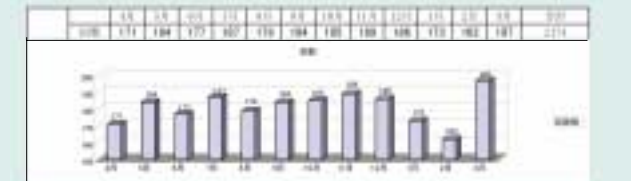
要介護度別利用者数



月別利用者延人数

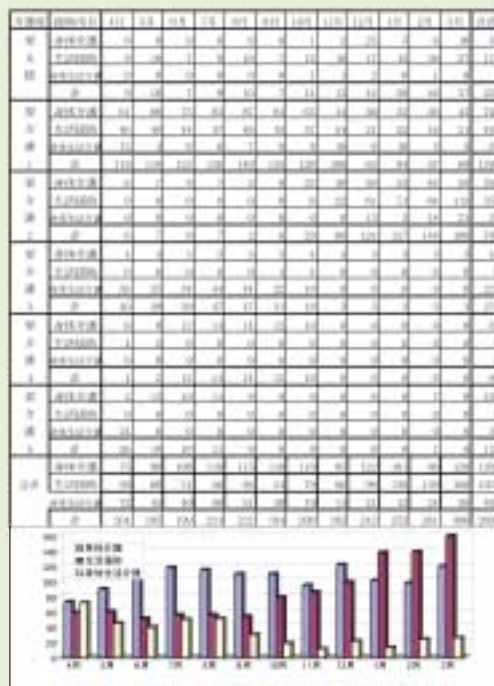


施設送迎回数



平成15年度

訪問介護事業所実績報告書



まどかの郷



結婚のため、3月末にまどかの郷を退職させて頂きました。大変お世話になりました。

山本祐也・友子夫妻

(旧姓:伊藤〔前・介護職員〕)

2004年5月15日に、マリエール岡崎にて無事、結婚式を挙げることができました。

当日、週間天気予報では最初、雨といわれていましたが、天気にも恵まれ、とても素敵な結婚式ができたことを幸せて感じています。施設長、副施設長はじめ多くの方々に祝福していただき、感謝しています。

今後は、ゆっくりゆっくと「勇気・元気・陽気」を持ち、必要な時には「時(とき)」を待ち、自分達らしく家庭を築いていけたらと思っています。

今後ともよろしくおねがいいたします。

私たちが結婚しました!

八楽児童寮



大谷伊智朗・良子夫妻

(旧姓:草田〔前・栄養士〕)

11年間、八楽児童寮でいろいろな経験ができて本当に良かったと思っています。

八楽での経験が結婚生活に役立っています。今、幸せです。

- 1月
- 2月
- 3月
- 4月
- 5月
- 6月

- 1月
- 2月
- 3月
- 4月
- 5月
- 6月

- 1月
- 2月
- 3月
- 4月
- 5月
- 6月

- 1月
- 2月
- 3月
- 4月
- 5月
- 6月

【まどかの郷】

【八楽児童寮】

【ボランティアの方々】

【まどかの郷】

【八楽児童寮】

【ボランティアの方々】

【まどかの郷】

【八楽児童寮】

【ボランティアの方々】

【まどかの郷】

【八楽児童寮】

【ボランティアの方々】

【まどかの郷】

【八楽児童寮】

【ボランティアの方々】

【まどかの郷】

【八楽児童寮】

【ボランティアの方々】

【まどかの郷】

【八楽児童寮】

【ボランティアの方々】



今回の記事についてのご感想や新コーナーのご案内、近況報告など皆様からのお便りをお待ちしております。

0536(22)0762

社会福祉法人 和教会
拜啓新聞編集室まで

寄付者の方々(寄付金/寄付物品含む)

ありがとうございました。

ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。以下、寄附者とボランティアの方のお名前を記載いたします。

- 1月
- 2月
- 3月
- 4月
- 5月